

議会だより

2023.8.25 No.207

も く じ

表紙 若草保育園訪問
2P 令和5年第二回定例会
主な議決事項など

3~11P 一般質問
(6P 東京都町村議会議員
講演会参加報告)

12~13P 行政視察報告

14P 移住者の声



チューリップ組の子どもたち

若草保育園

島のなかで最も古い保育園で、54年の歴史がある。現在、「ひよこ（1歳）」から「さくら（5歳）」まで77人の園児を受け入れている。元気な声がひびく園内で、年齢も個性も異なる子どもたちを楽しそうにお世話をしている保育士の姿が印象的だった。

園の独自のコンセプトは、社会に出て困らないように生きる力をつけること。「自分のことは自分で行う」ことで、自立を目指しているそう。

人員不足が原因の保育園の休園によって、「若草」と「むつみ第2」が「ひよこ」の園児を分担して受け入れている。人員配置で困っていることはないかと伺うと、要望が通って調理員と保育士が一人ずつ補充されたそう。

日々の健康管理を行いつつ園児が楽しい生活を送れるよう、これからもお願いしたい。

（取材者 奥山幸子）



6月定例会

一般会計

1億1533万円追加補正

歴民改修事業電気工事費増額など

令和5年第二回八丈町議会定例会では、一般質問の後、専決処分された令和4年度一般会計補正予算ほか2件が承認された。

令和4年一般会計繰越明許費の報告では、すでに終了したエアコンの取替工事、継続中の出産・子育て応援ギフト委託、7月完了予定の電線共同溝予備設計委託などの説明があった。

一般会計事故繰越し繰越額の報告では、火葬場屋上防水補修工事が想定を超える施設利用が重なり、工期内の完了が困難となり5年度に繰り越されたという説明に、毎日のように火葬場が利用されていたことを思い起こし、さもありませんと納得した。

水道事業会計、一般旅客自動車運送事業会計の継続費の報告では、大川浄水場改修事業に係るもの、また町営バス事務所・車庫建設事業に係るものという説明が

あった。

令和5年度一般会計補正予算審議では、歴史民俗資料館工事費の不調に終わっている電気工事について9千万円増額し、島の事業者も参加できるように金額設定したと説明があった。また、9千万円は島の事業者だけの場合だが「島の事業者も関わるといいと考える」と答弁があった。

温泉のポンプ購入費570万円の補正では、島内4ヶ所のポンプ式温泉井のうち3ヶ所が受注生産のデンマーク製ポンプで、納品まで3ヶ月以上かかるため、予備用として今回の補正予算で計上したと説明があった。また、ポンプの点検は100万円ほど費用がかかるため5年に一度行っているが、今回異常の兆候もなくいきなり壊れたということで、これからは八丈島で地熱発電所建設事業を行っているオリックスが収集している

温泉井戸の稼働状況データを提供してもらえるように話を進め、異常の兆候を早く検知できるようにしていきたいと答弁があった。

以上のような審議を経て、補正額1億1533万4千円の令和5年度一般会計補正予算は可決された。

今回の定例会においては今まで

主な議決事項

6月定例会 令和5年6月14日

- ◎専決処分事項の報告及び承認について（令和4年度八丈町一般会計補正予算） ほか専決処分2件
- ◎令和4年度八丈町一般会計繰越明許費繰越額の報告について ほか報告4件
- ◎令和5年度八丈町一般会計補正予算ほか補正予算4件
- ◎八丈町給水条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例
- ◎中道伊郷名線道路改良工事（坂下工区）請負契約
- ◎議員の派遣承認について（南大東村訪問） ほか2件

第一回臨時会 令和5年7月3日

- ◎令和5年度農業基盤整備促進事業三根河尻水路改修工事Ⅰ期工事請負契約

不調に終わっていた歴史民俗資料館の電気工事の入札について、増額し島の業者にも門戸を開いた。スペースなどの関係で、八丈支庁舎に仮展示できないで保管されている展示物のためにも、予定どおりの令和6年度完成を目指してもらいたい。

（山下則子）

◎専決処分事項の報告について（和解）

第二回臨時会 令和5年7月26日

- ◎専決処分事項の報告及び承認について（令和5年度八丈町一般会計補正予算）
- ◎八丈島歴史民俗資料館及び付属施設電気設備工事請負契約

主な会議

- ◎議会運営委員会 令和5年6月7日
- ◎令和5年第二回八丈町議会定例会について

全員協議会 令和5年5月10日

- ◎歴史民俗資料館展示基本設計について
- ◎行政視察について

一般質問

6月14日 質問者9人

各質問者の録画映像はインターネットでご覧いただけます。掲載文中、表現が硬くなっている部分ありますがご了承ください。



いわさき ゆみ
岩崎由美 議員

文化財をどのようにまもり、活かしていくか

八丈町では「歴史と文化を生かす町」の理念のもと、新歴史民俗資料館の建設に向け事業を進めている。仮展示している以外の品々の保存状況について伺う。

問 現在の保管状況は。

答 教育課長 おじゃれホール
の倉庫には指定文化財を含む古

文書などの紙類や獣骨類など歴史価値があるもの、庁舎の3階倉庫には屏風や織物など大ぶりで価値があるもの、丘里の保管場所にはそのほかの所蔵品が保管されている。

問 保管に関しては専門家のアドバイスを受けたか。

答 博物館などの所蔵品の保存方法に詳しい専門家にアドバイスを受けた上で移動させた。

問 空調施設のない丘里に保存されている貴重な八丁撚糸機、カップタ織り、地層はぎ取り標本などは、空調のある場所に移動するべきでは。

答 担当者も真摯に取り組んでいるので大概の所蔵品については適切に保管されているが、それらについては環境のよい場所

に移動させようと考えている。問 どのような物を、いつ頃移動するか。

答 職員だけでは判断できないものもある。八丁撚糸機などではできるだけ早く、そのほかについては専門家のアドバイスを受けたら今年度中には行いたい。

将来にわたる人口減少への対策を、どのように考えているか。

国立社会保障人口問題研究所が、2070年に日本の人口は8700万人になると推定している。

問 令和3年4月に八丈町人口ビジョンが策定された。予想された人口動態について、現状と比較しての評価は。

答 企画財政課長 シミュレーションから令和5年の人口を計算すると7128人。1月の人口は7053人だったので75人減となる。社会増減はプラスとなっているが、自然増減につい

ては出生数が少なく、大きくマインスとなった。

問 現在、移住定住については支援事業などの施策が実施されているが、これを超えるだけで十分と考えるか。

答 雇用拡充事業、定住サポート支援事業、東京多摩島嶼移住定住相談窓口の活用や、島外物産展でのPRなどさまざまな施策を行っている。これらを通じてながら、より効果的な施策について取り組んでいきたい。

問 今後人口が増加していくということは、たいへんむずかしい。水道など社会資本整備は財政を圧迫していく。持続可能であるためには、コンパクトシティやゾーニングのような考え方を導入する時期にきているのでは。

答 八丈町の地域性もあるもので、非常にむずかしい問題だと考える。しかしながら次期構想ではそういったことも検討していきたい。



かながわ たかゆき
金川 孝幸 議員

特定外来生物のオオキンケイギクの駆除について

八丈島空港滑走路の周りに黄色い花が咲いていて綺麗だなと思ったが、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されたオオキンケイギクであることが分かった。花はコスモスに似ているが、この植物は定着すると在来の植物の生育場所を奪い、周辺の環境を変えてしまう危険性がある。八丈島には他の地域にはない固有の植物などが生育する特別な環境にあり、環境の保護に努めなければならないと思う。

固 綺麗な花なので家の庭の周りに移植している家を見かける

が、特定外来生物であることや移植や栽培は禁止されていることを周知する必要があるか。

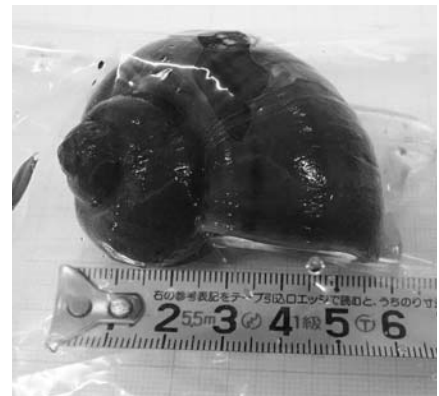
答 住民課長 当該種は問題を引き起こす海外起源の特定外来生物に指定され、日本全国が防除を行う区域に定められている。外来種被害の予防対策として、入れない、捨てない、広げない、三つの対応について町の広報で周知する。

問 オオキンケイギクは年々増えていくように感じているが、空港を管理する東京都と連携して駆除に取り組む必要はないか。



オオキンケイギク

ジャンボタニシ(上)と、植物に産み着けられた卵



などは考えてない。

問 都への情報提供は行っている。都とは連携してアシジロヒラフシアリなどの駆除を行っている。オオキンケイギクについては一時期緑化対策として国道沿線に植栽されたことと、全国が駆除対象区域となっており国の対応が期待される。

問 自治体によっては国で定められた外来生物法よりも厳しい条例を定めているが、オオキンケイギクに限らずさまざまな動植物の害の発生している八丈町ならではの対応が必要と思うが。

答 国で定めた法律などがあり対応できるので、町独自の条例

問 すでに多くの外来の動植物が入ってきているが、駆除には早目の対策が有効である。ほかにも国の生態系被害防止外来種リストで対策の必要な重点外来種のジャンボタニシの駆除や、国内の各地で確認されているヒアリやアカカミアリは人に危害を与えるので島に入れない水際対策も重要であり、空港や港で定期的にアリの駆除剤を散布できないか。

答 すべての外来種への対応はむずかしく、住民の生活環境を重視した対策を行っていく。



あざぬま たかあき
浅沼 隆章 議員

第一次産業と島民が最低限度の生活を維持するための対策を

世界の状況は大変厳しい状況であり、さまざまな要因があるなか、電気の安定供給ができなくなる可能性があるため、電気料金の値上げが決まった。また3月定例議会において賛成多数で可決された水道料金値上げが10月から始まる。ライフラインである水道がこのタイミングで値上げする影響への対策について質問する。

問 第一次産業への対策について

ほとんどの燃料を海外からの輸入に頼っているため、石炭や液化天然ガスが高騰すると、電

気料金も比例して値上がりし、加えて水道料金の上昇により生産コストが上がり、農業・漁業・林業で生産するために必要な経費が高騰し、その上昇分を商品の料金に価格転嫁できない場合は、収入が減ってしまう恐れがあるが、町としての対策は。

答 産業観光課長 現状の把握として産業別就業者数は、全就業者数3700人で第一次産業は491人、第二次産業562人、第三次産業2528人、その他分類不能119人で、第一次産業の値上げが原材料の高騰という理由で、第二次・第三次産業への値上げに繋がっていることもうかがえる。そのような中でエネルギー政策を含む軽減措置を政府が主導で実施しており、電気代などへ一部補助が出ている。また、今後の見通しとしては、7月には輸入燃料費の液化天然ガスなどの下落を受け大手ガス・電力各種が値下げをする方針を打ち出しているとも聞いている。

そのような状況を踏まえ「自

助・共助・公助」の考え方を基本とし、まずは自助努力をし、次に共同で行える経費削減などを実施し、なおも負担が過度に生じる場合には補助や支援を受けることになる。燃料費などの景気動向なども見据えての判断となるので、ご理解願いたい。

問 島民が最低限度の生活を維持するための対策について

水道料金や電気料金の上昇は、生活費の増加を意味し、家計においてこれらの料金は必要不可欠な支出項目であり、生活品や必需品の購入に支障をきたすことがある。また水道料金の上昇は、生活の品質にも直接影響をおよぼす可能性があり、水の使用量や質に制限が生じ、生活の快適さや衛生面に支障をきたす可能性もある。生活困窮者を出さないための八丈町の対策は。

答 企業課長 水道事業を将来にわたって継続していくために、水道料金の改定をするが、口径13ミリと20ミリが大半をし

める一般家庭に、急激な負担とならないような改定としている。また、今回の料金改定後も一定の要件を満たす高齢者世帯の水道料金の減免制度も継続していく。

八丈町のホームページで議会の会議録が閲覧できるようになりました。

町ホームページ (<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/>) 内の「議会事務局」→「会議録」に進み、ご覧になりたい会議を選択してください。PDF形式で閲覧できます。QRコードからは直接会議録のページにジャンプします。なお、新しい会議録を掲載するまでには時間がかかりますので、ご了承ください。





あさぬま きよたか 議員
浅沼 清孝

中之郷埋立処分場について

熱海市の土石流事故以来、埋立地の危険性が指摘されているが、中之郷埋立処分場をこれからも長く使用していくため、安全な埋立計画があることを町民に説明願う。

〔答〕住民課長 当該地は昭和48年5月に竣工した旧埋立処分場の隣地であり、残存している自然公園法に関わる申請書には、昭和56年4月1日より土砂の流出などの二次被害の生じない場所として、当該地が決定した旨の記載があり現在にいたる。

当該地は、不燃物である約100トンのガラスくずの埋立場と約3000トンの伐採木置場

となつている。ご指摘の埋立計画は作成しておらず、当該物を制限なく受入れているのが現状。

計画はないものの現実的な運用として、土砂災害警戒区域に入り、搬入道路の法面の一部は土砂災害特別災害区域に入るため、大雨警報が発令された際は、入口を封鎖し受入れを中止する運営を実施している。ただし、不燃ごみを含めた盛土で、土留め対策など専門家の知見を得ずに実施しているのが現状。土地の形状などを把握するため測量調査費を5カ年計画にあげ、年度計画に基づいて対応したい。

また、ガラス類は新クリーンセンターの供用開始後に現クリーンセンター跡地に再利用資源化に資する施設を整備し、埋立の減少計画を推進する。

〔問〕埋立に関して軽減するといふ計画はあるか。例えば堆肥を作り、資源を利用することで対策できると思う。

〔答〕ガラスは新クリーンセン

ター跡地に再利用資源化に資する施設を整備。それにとまなしい、伐採木の再資源の件も検討していく。

東京都町村議会議員講演会参加報告

令和5年5月22日

今年度の東京都町村議会議員が主催する議員講演会には、「一般質問」をテーマとして開催され、東京都の多摩及び島しょ地区の町村議会議員および事務局職員が出席しました。

初めに、自治体とは町民が必要不可欠とする政策や制度をよりよく整備することを目的とする機構で、そして議会は自治体の政策や制度をよりよく整備するために権限を与えられた機構であることを踏まえ、「一般質問」についてお話いただきました。

一般質問とは、議員の活動と知見により、政策や制度の争点を提起し、監査や提案をする機会である。

一般質問における監査とは、自治体の運営や事業の執行について、その状況や効果などを検証および評価して執行機関が適切に執行しているかを、あるべき姿を念頭に問うこと。また提案とは、現状（分析）主張で構成され、自治体の政策・事業をその在り方について改善や廃止を含め提起すること。現状を变化さ

『質問力を高める、議会力にいかす～政策資源としての一般質問』

講師 法政大学学部教授 土山 希美枝氏

せることは行政にとってコスト面において高くなりうるが、それを超える正当性が一般質問には必要となるお話でした。ほかに、事実を固めるための情報収集に関する内容など、2時間程の講演会でした。（沖山 昇）



会場のアジュール竹芝 14階「天平」で

◎参加議員

- 山本忠志 浅沼憲春 真田幸久
- 浅沼隆章 奥山幸子 浅沼清孝
- 山下則子 金川孝幸 沖山 昇
- 岩崎由美 浅沼碧海 山下 巧

歴史民俗資料館は人との交流の場に



おくやま さちこ 議員

先日、全員協議会で新資料館の展示内容が示された。最終的な設計・計画は委託会社の提案が多く盛り込まれたものになっているという感想を持った。先進的な技術とアイデアを駆使して、素晴らしい資料館が描かれていた。ただ、展示内容と運営方法について、検討いただきたい点がある。

問 これまでごおり解説するガイドを置くこと。

答 教育課長 資料館の整備に費用が嵩んでいるので、十二分に活用するため、内容を検討する。ワークショップやイベントを企画し、SNSなどを活用して資料館の情報を島内外に向け

て発信できる担当者を置き、その担当者がガイドや来館者の問い合わせなどに対応するという運用を考えている。

問 資料館は島民が学習する場であると同時に、観光客にとっては島の歴史を知る拠点となる。観光客は文字やQRコードによる音声で館内を見るのは大歓迎。ただ、資料館の価値を高めてきた生身のガイドによる案内は必要だ。根拠は、アンケートでの評価が高くリピーターが



八丈支庁展示ホール内に移転中の歴史民俗資料館

多いという事実だ。観光客の多くは地元の人と話したい、つながりたいと思っている。ガイドの解説で歴史と八丈文化を学びながら人との交流の場が生れる。ガイドの質の高さは内外に誇れる。また、八丈は雨が多い。雨の日こそガイドの価値がはっきりする。

観光客の満足、雨の日対策、人との交流の場としてガイドは重要。ガイドの人数や待遇の維持を要望する。

答 C室は交流の場になる。基本的にガイドは置かず、要望があれば対応する方向で考えている。ガイドが本当に必要なかどうか検討課題だ。

問 戦争遺跡の展示コーナーを設けること。今、国の方向性が大きく変わろうとしている。今こそ戦争遺跡の展示を行い、子どもたちに大人に日本に戦争があった事実を風化させない学習の場を提供していただきたい。

答 新館部分で島の歴史を展示し、現代の部分で戦争遺跡コーナーを設ける。

問 学芸員をおくこと。企画展示を行うなど資料館のあらたな可能性が開ける。

答 配置したいと考えている。

夏まつりの開催について

今年ようやく夏まつりが行われることになった。住民の期待は大きいと思うが内容を聞いて少し違和感を覚えた。住民から多くの不満の声が上がっている。

遅きに失していることは承知しているが、町の姿勢を問う。

問 3日の日程が2日になったことと道路沿いに店舗を出さない理由は何か。

答 産業観光課長 町は実行委員会に補助金を出している立場なので、内容については関わらない。商工会の青年部の人員不足で2日になったと聞く。店舗は庁舎内に出す。

問 実行委員会に議員を加えてほしい。

答 これについても町は直接関わっていない。



議員 真田 幸久

温泉施設活用のための方策について

○八丈町温泉浴場条例の第1条において、福祉と観光という二つの目的が設定されているが、福祉・観光それぞれの視点からデータの収集が行われているか。行われているならば、どのような項目・内容なのか。担当部署が福祉健康課ということ観光面に資するデータの収集が行われていなければ、今後、各種属性データ（性別、年齢別、住民か否かなど）を収集、今後の方向性を考える上で活用すべきと考えるが、産業観光課との連携を含め、町としての考えは。

○福祉健康課長 温泉使用料

徴収施設においては、施設別入浴券の種類別に当日券、回数券、一日周遊券入湯証、2日間バス温泉共通券バスパ、各種割引券、町優待券、障がいのある方などの利用証明、無料の未就学児という8種類の区分で利用者数を集計、ある程度は、島民と観光客の人数を推測することが可能と考えている。

ふれあいの湯、やすらぎの湯は、島民が65〜70%、観光客が30〜35%。みはらしの湯は、島民が約35%、観光客が約65%と見ている。しかしながら、福祉、観光それぞれの視点からのデータ収集については、行っていない状況。今後、必要に応じて観光面に資するデータ収集や、産業観光課へのデータ連携を図っていきたい。

○入湯税について、八丈町では、八丈町徴収条例の第3章目的税第1節入湯税において規定しているが、現在、課税を行っていない。伊豆・小笠原諸島においては、大島町、新島村、三宅村、八丈町、小笠原村が入湯

税を規定、大島町、新島村、三宅村は、実際に入湯税を課している。何故、八丈町では、現在、入湯税を課していないのか。銭湯料金が、全国的に概ね500円前後となっている中、観光客から入湯税（150円）を徴収、それ以上の値上げをしたとしても、割高感はあまりないと考える。年間8千万円位の赤字になっても行うべき福祉政策なのか、また、入湯税を自主財源として活用すべきと考えるが、町としての考えは。

○税務課長 住民の健康増進

入湯税額推移

単位：万円

	大島町	新島村	三宅村
令和3年度	703.1	24.1	165.0
令和2年度	309.3	28.2	99.5
平成31年度	518.3	36.5	345.5
平成30年度	560.3	27.8	349.4

※各町村の各年度財政状況資料集より筆者作成

を図り、福祉の向上に資する施設とするという趣旨から、共同浴場公衆浴場に準じる施設として位置付け、入湯税の課税客体にしないとした経緯がある。住民福祉の向上に対して占める役割は依然として大きく、入湯税という形での負担は現状にそぐわないと思われる。

○町長 データの収集などは大事なことを考えているが、施設の老朽化が進む中、まずは、ザ・BONをどうするかを含め、早く庁内にプロジェクトチームを立ち上げて、対応していきたいと考えている。

○温泉の活用について、庁内プロジェクトチーム立ち上げの考えは評価できるが、運営主体の問題も含めて、庁内だけではなく、住民を巻き込んで今後対応してもらいたい。

○町長 まずは、庁内プロジェクトということで立ち上げるが、大きな町の将来の問題、そういう部分では、住民の意見も広く取り入れていきたいと考えている。



あさぬま あおみ 浅沼 碧海 議員

八丈高校寮の建設、ホームステイ受入について

○ 学生数は毎年減少し、近い将来2クラス→1クラスになる可能性は高い。八丈高校の寮建設の必要性に対して町としての見解を。

○ 教育課長 寮の建設については具体的な話を伺っていないので回答はできないが、町として協力することはやぶさかではない。ただ長期的な展望に立って慎重に検討が必要。

○ 町長 寮の建設に関してはやぶさかではない。人材が大事。人材が見つかるかという部分でも検討していきたい。

○ 留学生が島出身の生徒に良

い影響を与えていると聞いています。寮建設を見据える上でもホームステイ受入の継続は必要であると考えます。また物価高の上昇に伴い受入先に支払われる金額についても検討が必要であると考えるが町の見解は。

○ 教育課長 ホームステイ事業は続けていきたい。近年の物価高騰を考えると経費の見直しをする時期にきている。都との共同事業なので支給額は今後相談しながら検討していく。

青島特別支援学校分教室（以下青島）の件について

○ 青島モデル事業が今年で3年目を迎える。継続には生徒の卒業後の進路は大きく意味を持つ。現在学校に通う多くの生徒が島内での就労先を考えていると聞いている。就労などについて町の進捗状況は。役場の職員として「生活支援員」や「ケー

スワーカー」といった、彼らにより理解のある人材の採用枠を設けてはどうか。

○ 総務課長 現場実習を行っ

てもらい能力などを評価し、生徒や学校と面談をしていく。実習を通じて町職員も理解しサポートをしていくと考えており採用は考えていない。

○ 青島を継続していくためには島全体の理解や協力が必要。商工会などを通じて島内の企業向けに勉強会などを行えないか。

○ 福祉健康課長 継続していく上で、島内全体でのサポートや理解は重要な課題である。雇用支援の補助・助成金の窓口部署は産業労働局雇用就業部となっており、関係部署と協力し対応を検討したい。

○ 青島が八丈島にあることは一つの島の特色であり魅力であると捉えている。青島に対する思いを伺いたい。

○ 町長 青島については知事の一声で実現した。都の教育長からも卒業後の雇用の問題を考えてほしいと言われており、実習にて可能かどうかの検討も含め、ぜひ採用していければと

思っている。

町役場の雇用の件について

○ 昨年度は合計25人の退職者が出たと聞いた。組織としてのケアサポートや、新しい職員採用による人員不足解消の対策を町として行っているか。

○ 総務課長 組織としてのケアサポートは各管理職、人事担当課、衛生委員会が連携して取り組んでいく必要がある。今後の取り組みとしては早期発見対応が第一と考え、メンタルヘルス対策の研修を検討している。

人員不足対策としては採用年齢を59歳まで引き上げた。年齢を理由に受けられなかった方などから応募も来ている。今後職員募集のための動画作成を考えている。

他に次の質問をしました。

○ 温泉の活用の見直しについて

○ 補助事業の資料開示について

詳細はyoutube参照、もしくは

浅沼本人までご連絡を。



やましたのりこ 議員
山下 則子

フリージアまつりについて

フリージアまつりは、八丈町の活性化を図るための行事と考ええるが、町民からはまつり会場での花摘みがなぜできないのかなどの不満の声も聞いている。一方で、黄八丈を着付けしてもらって記念のフォトを撮るイベントやキッチンカーの出店などがあり、楽しめたという意見もあった。そこで、次のことを伺う。

④まつり会場で、なぜ町民は花の摘み取りをしてはいけないのか。

⑤産業観光課長 フリージアまつりは、島外の観光客を八丈

島に誘致するためのものである。その来場者の特典として花の摘み取りがある。八丈島まで来ていただくための施策である。

④まつりを盛り上げるため、出店を増やしてほしい、あるいは自分の店も出店したいがどのような手続きが必要かとの意見もある。

⑤実施内容はまつり実行委員会が決定しているので、出店希望者はまつり実行委員会へ相談してほしい。窓口は観光協会になる。キッチンカーなどの出店は、実行委員会で内容確認し町有地一時使用許可を受け、使用料を徴収して実施する。

⑥フリージア栽培農家が減少していると聞いている。町ではどのような対策を考えているのか。

⑦フリージアに限らず各作目の後継者対策は大きな課題として認識している。農業担い手育成研修センターでは切り葉を中心とした花卉園芸品目を研修作目としているが、フリージアな

どほかの作目の就農希望があれば、都の指導農業者や普及指導センターなどと連携し支援していきたい。

旅先納税について

⑧新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類になり、また八丈島を舞台とするアニメ映画も好評で、来島する観光客も増えているように感じる。

人口が減少し、それにとまない税収も減ってくるわけだが、近年旅先納税を導入する自治体が増えているようだ。たとえば

旅行や出張で訪れた自治体で、1万円を納税して3千円の商品券として受け取り、宿やお土産屋さん・飲食店などで使用でき、町にとっても一石二鳥の税といえる。

八丈町も観光地として、旅先納税をアピールしてもよいのではと考えるが、町の見解を伺う。

⑨総務課長 令和4年度の八丈町のふるさと納税件数は160件、金額は502万1000円。

旅先納税導入している自治体は27自治体で、スマートフォンから即座に寄付でき、市町村からその自治体ですぐ

使用することができ電子商品券として受け取り、使用できる。

導入するには島内の店舗の協力や費用対効果について検証しなければならず、この仕組みについて情報収集していきたい。



小笠原村のふるさと納税のポスター



やまもと ただし
山本 忠志 議員

住みたくなる島の実現のために

○ 本年3月1日、山下町長は、令和5年度施政方針の中で「訪れたくなる島から住みたくなる島へ」と述べられた。その構想の実現のための具体策を伺いたい。

○ 町長 定住に結び付けるには雇用が不可欠であり、一次産業の充実を図りながら観光関連産業の振興を図りたい。また、定住サポート支援事業や特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用した雇用拡充事業を進め、新たに効果的な事業があれば積極的に取り組んでまいりたい。

さらに「住みたくなる島」に

するためには、「住みやすい島」を目指さなければならぬので、島外からのアクセス確保のために航路・航空路の維持にも取り組んでまいりたい。

また、安心して暮らすための防災対策の強化をはじめ、子育て支援対策として、高校生の医療費無償化を今年度から実施し、子ども家庭支援センターの充実、小中学校の給食費の無償化についても早い時期に取り組みたいと考えている。

今後は、地域コミュニティの活性化を図り、住みたくなる島を目指したい。

教育負担の軽減を

○ 最近、国は「異次元の少子化対策」と掲げて、少子化傾向を反転させる取り組みを開始し、また、保護者の負担軽減のための取り組みを始めた自治体も報道されている。

八丈町も教育費の負担軽減について検討する時期にきていると考えるが、町の見解を問う。

○ 教育課長 教育費の負担軽減

策として、まず経済的な援助が必要な家庭に対して就学援助制度を設けており教材費や給食費を支援している。また、全家庭に対し給食材料費の15%を町が負担している。また修学旅行や移動教室、島外職場体験交通費なども補助している。

今後は、校舎や給食センターの建替えに多大な費用を要する見込みとなつているため、国の動向を見ながら検討したい。

児童生徒にデジタル教科書を

○ 八丈町は、2019年12月の「GIGAスクール構想」発表と同時に全児童生徒に一人一台タブレットを導入し、抜群の成果を上げていることを誇らしく感じるとともに、町の大英断に感謝している。

しかしながら、「デジタル教科書」の導入が次なる課題と考えている。2024年度は教科書改訂の年でもあるので、このタイミングに全教科のデジタル教科書の導入を検討していた

けないかの考えを伺いたい。

○ 教育課長 文科省の計画によると、全教科一斉にデジタル教科書にするのではなく、まず小学校5年生から中学校3年生迄の英語を先行導入して、翌年度以降に、当面は紙の教科書とデジタル教科書を併用して算数・数学を導入する計画になっている。

八丈町では、国の実証事業として、今年度より算数・数学・英語についてデジタル教科書を導入した。その実証結果をもとに、学校や児童・生徒のニーズに合わせて、また文科省の状況を見ながら必要などころから導入していきたいと考えている。



全児童生徒に支給されたタブレット

丸森町は地域愛の熱い町だった

参加議員

真田幸久	奥山幸子
山下則子	金川孝幸
沖山 昇	岩崎由美

乗り合いタクシー 「あし丸くん」

前半は町役場について担当課の方にお話しを伺う。まず予約型乗合タクシー「あし丸くん」。利用者宅付近から、病院や商業施設な



あし丸くん予約センター

どのまちなか拠点を結ぶ町民の足で、1回(片道)400円で利用できるしくみ。車を持たない高齢者の利用が多い。商工会、タクシー事業者、予約センターの3者が連携し事業を行い、商工会を通じて町が補助を出している。平成20年から事業を開始したが、近年は利用者が減少しているため、費用対効果を検証しよりよい地域交通環境を整備していくとのこと。

起業型 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊については、平成28年度以降、累計隊員は55名、定住した人数は23名。現在は起業型、起業研修型、地域連携型、復興支援型で15名が活躍している。また移住者を含めた起業支援についてはCULASTAが受

託。官民連携により起業家をサポートしている。

子育て支援施策では、中学生までの給食費および医療費無償に加え、15～17歳に対し、ひとりあたり年間5^{キロ}×2回の地元産のお米をプレゼント。町の病院には小児科・産婦人科がないため、スマホで無料相談ができるシステムを導入するユニークな事業が行われていた。

後半は、丸森町在住の方に令和元年東日本台風による土砂災害跡地や、住民の自治意識が高い筆甫(ひつぽ)地区をご案内頂く。廃校となった旧筆甫中学校を私財を投じてデイサービスや保育園などに活用している「そのつ森」。住民自治組織「筆甫まちづくりセンター」では、自ら暮らしをよくするために意見を出し合い試行して



地域の皆さんと交流会

いく自治のあり方について学んだ。最後は協力隊の方が運営している「まるもりホステル」にて、議長をはじめ協力隊関係者や地元の方と交流会を通じ、移住者の熱意や地元の方の丸森への思いを伺うことができた。

参加メンバーからは「町役場の職員や住民が意欲的で、住みやすい町にしたいという情熱や地域愛を感じた」「まちづくりには中心となって行動する人材が必要。どう世代交代していくか」などの感想が寄せられた。お世話になりました。皆さまに心より感謝いたします。

(岩崎由美)

気仙沼市の震災復興・防災対策

参加議員

浅沼隆章 浅沼清孝
浅沼碧海 山下 巧
浅沼憲春

東日本大震災遺構・ 伝承館などを視察

13日午前中は東日本大震災遺構・伝承館にて鈴木高登気仙沼市議会議長よりごあいさつを頂き、同市における震災復興・防災対策



東日本大震災遺構・伝承館で

について危機管理課の職員の方から説明を受けた。八丈町で導入予定である救命艇を、同市では導入の予定があるかという質問に対して、瓦礫の散乱や火災の危険性を検討し導入予定はないとのことであった。

芳賀一郎館長に案内していただいた伝承館は「震災の記憶と教訓を伝える目に見える証」として、津波で被害に遭った学校をできるだけそのままの形を残した場所である。お話や説明を伺う中で鈴木議長も、危機管理課職員の方も、また、芳賀館長も一被災者であったことで当事者としての危機感が強く、安全な今でも常に緊張感を持って暮らしている現状がヒシヒシと伝わってきた。

午後は気仙沼震災復興語り部の方に、主に気仙沼港周りのガイドをしていただいた。防潮堤の存



東日本大震災遺構・伝承館にある破壊された校舎の内部。伝承館自体が高校の跡地にある

在、地上げされた土地の中に、震災後のままの現状が残された場所などを案内してもらった。このガイドの方はお子さまを震災で亡くされたとのこと。伝承館でもそうであったが、出会う人たちがみんな震災を経験し、その記憶や思い、教訓を本気で伝えようとする



語り部ガイドの案内で港周辺を見学

一人一人の想いの強さが、気仙沼市全体から伝わってきた。いつ起こるかかわからない震災に備え、日頃からの防災に対しての強い取り組み姿勢は、私たちも見習わなくてはならない。

その後は気仙沼市中心を少し離れた道の駅「大谷海岸」に立ち寄った。大谷海岸は映画「すずめの戸締り」のモデル地となっており、八丈島も今現在、映画の舞台に設定された場所なので、どうPRやプロモーションに活かしているか、観光面も見習う部分である。

移動距離があり、約1日の行政視察となったが、実のある視察内容だった。気仙沼の皆さまに心より感謝申し上げます。

(浅沼碧海)

議会だより編集委員になって約11カ月。今までに3号発行させて頂きました。最近ビジュアルや中身をお褒めいただく機会が増えました。内容やデザインをより見やすく手に取って頂けるよう、4人の編集委員や事務局で足と頭を使い、工夫してきた成果が現れてきたのかと思ひ、嬉しく感じています。町議会のことを分かりやすく伝え、町政に関心を持っていただくことは、議員の大事な仕事なので、今後も町民のみなさまの声を聞きながら、よりよい議会だよりになるよう努めてまいります。(浅沼碧海)

発行人 八丈町議会議長 山本忠志
 編集 議会だより編集委員会
 委員長 奥山幸子 副委員長 山下則子
 委員 真田幸久 浅沼碧海
 〒100-1498
 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2
 tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437
 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

いいのゆうこ
飯野祐子さん

きっかけ 2005年、2006年にダイビングの仕事で約3カ月滞在した際に、八丈島の人の優しさに触れ、老後は八丈島でという気持ちになり、「健康は当たり前のことではない」との思いや、花を育てたり、家庭菜園をしたりしながら過ごしたいと考えていたところ、条件に合う物件が見つかったため、昨年6月に移住してきたとのこと。
八丈町に望むこと 皮膚に傷痕の残る手術などを受けた方々が、入浴を楽しめるように開発された専用入浴着による温泉施設への入場に関し、規定がわからず、そのような方々が温泉に行きづらい状況で、規定の有無やその内容などの周知をしていただければ、傷痕を気にして温泉に行くことをためらっているような方々が来島するきっかけにもなるのでは、とのことでした。

町では、「ふれあいの湯だんらん」を紹介した事例があるものの、上記のような視点での入場規定の検討をできていなかったため、今後、温泉施設全体に関して検討をすすめるとのこと。住民の皆さんの視点を活かすきっかけになればと思います。(真田幸久)



移住者の声
 来てみりゃ
 八丈は...

えんどう ともよ
遠藤朋代さん Inti Yoga 代表

八丈島への移住 サーフィンがきっかけで2010年に一度、その後何度か梁山泊でアルバイトをしながら八丈島での暮らしを始めました。休憩の1時間で海に行ける環境。そして皆と「また明日ね!」と言い合えるこの距離感に感動したそうです。

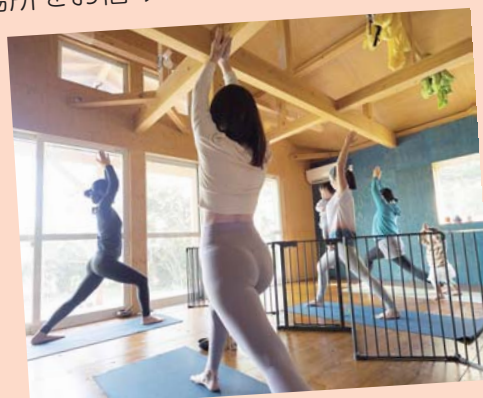
生き方を模索 島で暮らすようになり、梁山泊での仕事以外のライフスタイルを模索していたところ、これまでに自分が続けてきたものが三つ、そのひとつに「ヨガ」があったそうです。腰痛を治すために始めたのがきっかけでしたが、生活の変化を目指し資格を取得。ヨガインストラクターとして働き始めました。

Inti Yoga 設立 スタートは場所をお借りしての営業でしたが、島で生きる場所として2022年にスタジオを開設。ヨガに改めて携わり心身の変化を



実感します。「日々感じる不快な感情を自分の手で手放せたら」この感動を伝えるべく日々従事されています。

また、朋代さんはインストラクターの養成にも力を入れています。「島の中でもみんなが自分のスタイルに合うとは限らない。ヨガがより身近な存在になるようみんなが発信していければ」ヨガだけに限らず良いことは独占ではなく共有。そんな心の佇まいを感じました。(浅沼碧海)



子ども連れでのレッスンも